

俳誌「りんどう」700号に

表紙に会設立の藤岡筑郵さん代表作

松本市を中心に活動する、りんどう俳句会が発行する俳誌「りんどう」が、1月で700号となった。戦後間もない1946年に発足して80年。同会は「これを節目に、また『りんどう』の一步を踏み出したい」と、思いを新たにしている。

(矢崎幹明)

松本

記念の700号はA5判、160頁。表紙には、会を設立し長く主宰を務めた藤岡筑郵さん(102)の代表作「雲呼んで雪とす城の鬼瓦」を配した。

記念の700号はA5判、160頁。表紙には、会を設立し長く主宰を務めた藤岡筑郵さん(102)の代表作「雲呼んで雪とす城の鬼瓦」を配した。

かつて同会に所属し、現在は俳誌「岳主

辛の宮坂静生さんが景一師藤岡筑郵との四半世紀」を寄稿。筑郵さんが高校に入学して早々に筑郵さんから俳句の添削を受けたこと

や、句会の様子など思い出をつづり、「龍膽」(昭和30年代ごろまでの題字)の69〜150号から、壮年期の筑郵さんの俳句の変遷を振り返った。

その上で「俳誌の編集は、絶えず平地に乱の気配を感じさせざる。師(筑郵さん)はそれを求める度量の広さがあつた」と記した。

1月から降旗さんが主宰に就き、筑郵さんは名誉主宰に。降旗さんは「会員の減少や高齢化など厳しい時代だが、筑郵さんが続けてこられた意志を尊重し、できるだけ長く続けたい」と話。



「りんどう」700号を手にしなが、記念号を編集した思いを話す降旗さん

編集を担当する降旗牛朗さん(66、同市大手4)によると、筑郵さんは筑郵さんとの間に何らかの確執があり、りんどうを離れた。「宮坂先生に筑郵先生やその頃の『りんどう』のことを書いていただいたのは画期的なこと」と降旗さん。

700号は3千円。問い合わせは降旗さん方、りんどう編集所(☎33・1817)へ。